

京橋の印刷

3月31日1987・No.67

東京都印刷工業組合京橋支部
〒104 東京都中央区新富1-16-8
日本印刷会館3F 電話 552-1855

編集 近藤正弘
柴田博

表紙説明Ⅱ「竹」 松原友規(一八八八—一九八三) 作者は竹を好んで画いた。よき理解者であった安倍能成、高村光太郎、内山省三氏等は「数多き竹の作者のうち其の身竹と化し無窮に清新を出し得たものが果して幾人あったでしょうか。竹を味解し、竹と共感し、竹と三昧するの域に迄進んでゐるように思われます。」と讃辞を送っている。



巻頭言

「売上税」 反対集会在3月2日千代田公会堂で開催され、東印工組合各支部より多数の組合員が会場を熱気で埋め、赤い鉢巻キリリと締め、断呼粉碎を叫んだ。自民党からは鯨岡兵輔代議士が出席し、売上税導入に対してまずお詫び申し上げると言葉を切ったがさてこの後何とするものか、井上計議員の党議に反対ならば離党すべし、との言もむべなるかなとの感を強くした。

朝日新聞は3月11日、12日の両日全国世論調査を実施した。中曽根内閣の支持率は24%に急落し、不支持が56%と大きく増え、売上税に対しては実に82%の人が反対していることが判明した。衆参同日選で中曽根さんがテレビで訴えたのはサラリーマン減税、大型間接税を導入しないことであった。その定義はどうであれ、公約違反とみる人が74%もあるということに民意を感じない訳にはゆくまい。

複雑な過程の中で、僅少な付加価値を追求しているわれわれ印刷業者にとって、売上税を転嫁することは恐らく不可能であろう。

岩手の参院補選は勿論、統一地方選を目前にして、東京都鈴木知事も反対を表明した。

編集委員 田島 弘

東印工組 京橋支部新年臨時総会開催

六十二年二月十四日
於・箱根湯本富士屋ホテル大会議室

2月14日、箱根湯本富士屋ホテル大会議室において、東印工組京橋支部新年臨時総会が定刻3時30分に組合員85名が出席して行われました。まず大竹副支部長の司会により荒川副支部長が新年の賀詞を述べ、開会を宣した後、小山支部長が挨拶に立ち次のように述べました。

「月遅れの新年臨時総会になりましたが、皆様お揃いでまたご健勝で、新しい年を迎えられましたことをお慶び申し上げます。本日は関連業界の京橋製本協組豊田理事長、中央厚生事業協組牧野理事長、東印工組長島常務理事をお迎え致しました。先輩、組合員の皆様、御多用中遠いところを大勢ご参会戴きまして有難うございます。私共新しい執行部がスタートしまして約10カ月を経過したわけですが、その間支部運営につきまして温いご指導、ご支援を頂戴い致しまして誠に有難うございます。

昨年を振り返りますと経済低成長の中にありまして印刷を取り巻く環境は厳しいものがあります。又需要構造の変化、急激な円高の影響もあり、一段と景気の冷え込みを感じた一年でした。このようななかにもありまして新春にふさわしい、お目出度い事柄もありました。昨年春支

部顧問の斎藤喜徳さんが勲六等单光旭日章の叙勲の榮譽に浴されました。同じく顧問の伊坂一夫さんが全印工連より印刷産業発達功労者として



て顕彰されました。又相談役の石曾根啓悦さんは、全印工連並びに都中小企業団体中央会より、それぞれ組合功労者として表彰をお受けになりました。秋には顧問であります中村謹吾さん、石澤幸さんが中央区中小企業発達功労者として中央区長より表彰をお受けになりました。先輩方の叙勲や受彰に対しまして心から敬意を表しますとともに今後とも、増々ご健勝で私共後輩のために、ご指導頂けますようお願い致しております。又、業界としましては一昨年の全印連誕生に引続きまして、昨年7月には印刷業の行政指導の窓口であります通産省生活産業局紙業課が紙業印刷業課と名称が変更されました。これは印刷業界が評価され、又印刷業界の社会的地位が認知をされたという事でご同慶に堪えません。これもひとえに先輩方の永年にわたるご尽力や業界皆様方のご努力の結果であります。昨年の事業につきましては五月始めに通常総会を聞く予定でありますので、簡潔に申しあげますが、まず中央区文化展の開催がございました。その折には皆様方から物心両面のご援助、ご奉仕を賜りまして、お蔭をもちまして学童1千4百名を含め1万5千名のご参観を得て、成功裡に終了することができました。これも、偏に皆様

方のご尽力のお蔭とこの席をかりましてお礼申し上げます。また、昨年来、続けられている東印工組の大きな事業であります全国共済制度と経営者退社功労金制度への加入増強運動でございます。この共済制度は私共組合員のために設けられた制度であります。この共済制度加入増強運動に際しまして皆様方の深いご理解を頂き多くの成果を上げることができました。この席をかりまして重ねて感謝申し上げます。ところで、私共、印刷業界が秩序を正しく、又印刷業界の社会的地位の向上を図るためにはどうしても、組織の拡充が必要であります。東印工組と致しましては10%を目標に新規加入増強運動を只今展開中であります。京橋支部は現在268社の組合数でございますが、支部としましては27社の新規組合員加入を目標に努力しております。皆様方の地域で、東印工組に未加入業者の方が居られましたらご紹介を頂ければ幸いです。お待ちしておりますので、地区長または事務局までご連絡をお願いいたします。

次に今年の事業の重点は、第3次構造改善事業であります。構改と言いますと過去の経過からみましていろいろご意見やご批判がございました。その中には構改は中小企業特に小企業には不利益な事業ではないだろうか、中・小企業のための事業ではないかと、そして企業格差を助長する、従って業界の過当競争の激化にもつながるのではないだろうかという意見もございました。このような意見や経過をふまえて今年から始ります第3次の構改は小企業を中心と

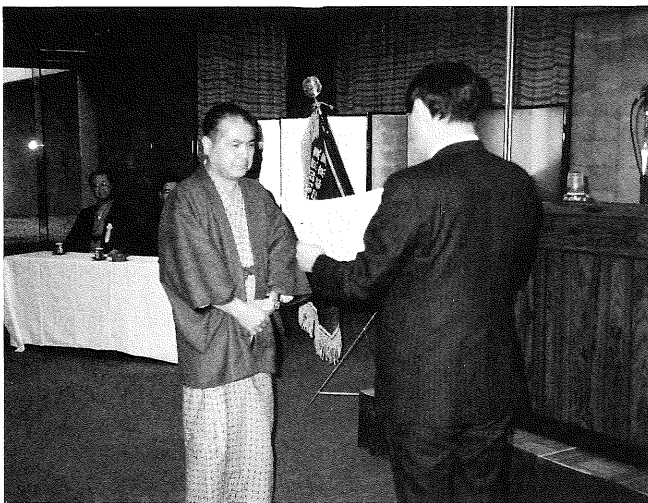
した構改事業という事で策定をされています。

「新たな時代を生き抜く業界計画」というタイトルで、全員が参加してこれから5年間、お互いに正しい情報のもとに勉強し合いながら発展していくという事業でございます。これにつきましてでは本日ご来席の長島常務理事に東印工組構造改善特別委員長として、後程お話があるかと思ひます。次に売上税の問題ですが、今非常に関心が高い問題であり、東印工組でもいろいろ議論がなされ、1月の理事会でこの売上税対策特別委員会が設置されました。東印工組としましては現在のところ売上税は我々印刷業の不利益になる要素が多く、又この税の導入によって印刷業界の中で混乱も予想されるということで、売上税導入反対という態度を表明しております。3月2日に千代田公会堂におきまして、売上税反対の決起大会開催が予定されております。後程正式にご案内があることと思ひますが、業界のためにも、自分自身のためにも影響を受けることでございますのでその折は一人でも多く、ご参加いただけますようお願いいたします。最後に皆様方が今年一年間ますますご健勝で企業がご繁栄されますようお願い申し上げます。又私共、執行部に対しましてご叱正、ご支援を賜りますようお願い申し上げます。新年臨時総会の挨拶と致します。有難うございました。(拍手)

続いて司会者大竹副支部長が「今年には総会決議事項がありませんので、退任役員への感謝状、

記念品の贈呈を致します。」と述べて小山支部長より、前支部長の小葉氏へ感謝状と記念品が贈られました。続いて前副支部長・監査役を代表して神林氏、前地区長を代表して、村上洋二氏、前幹事を代表して小張氏へそれぞれ感謝状と記念品が贈られ、出席者から盛大な拍手をうけました。引き続き組合功労者八千代印刷(株)、石曾根啓悦氏へ受彰を祝して記念品が贈呈された。

次に来賓の挨拶があり、東印工組常務理事長島一磨氏は次のように述べました。

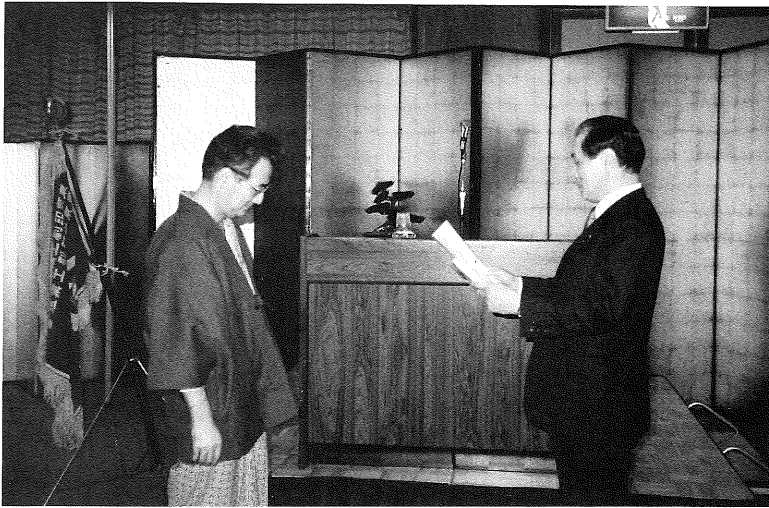


「本日の京橋支部新年臨時総会に際して、本来ですと東印工組より新村理事長、あるいは副理事長が出席して親しく皆様にご挨拶申し上げるべきですが、昨年末、新村理事長の発案で各支部への新年のご挨拶は遠慮させて頂きたいとの事で、各支部長のご了解を得て、本部三役は出席しておりませんのでご了承をお願いします。小宮山副理事長も止むを得ないご用があり本日は



伺えないとのことで、皆様によりしくとの伝言があり、私が代ってご挨拶させて頂きますのでよろしく願います。

先程も支部長のお話にもございましたが現在、東印工組は二つの問題を抱えています。一つは売上税、もう一つが構造改善事業です。この二つについて本部の動きを説明致します。売上税対策については本部は出遅れたという意見もあ



りますが、昨年東印工組としては絶対反対の線で行くことを決め、具体的な方策をどうするかについて、まず最初に売上税対策特別委員会が結成され、野村副理事長が担当することになりました。2月3日に第1回の会合が開催され、現在委員の中にも、公認会計士で(株)技報堂の山下忠治社長、この方構改の委員でもありますが、この問題について比較的詳しい方々も委員に



なつて、種々対策を協議中でございます。3月2日には、売上税反対決起大会が千代田公会堂で予定されてますので皆様方にも大勢参加して頂きたいと思ひます。種々の反対の理由は新聞や雑誌等で充分ご存知だと思いますが現在組合としましては、資料をいろいろ集めてこれが印刷業界へどのような影響を及ぼすか検討をしています。

又東印工組として売上税についての解説書、これも現在まとめている段階です。決起大会を開催するについてのステッカーやビラ等を作成中でございます。そして機関誌を通じて考え方を拡げていく予定です。実際問題として、5%の価格転嫁は印刷業界にとって大変大きな問題です。全印工連で経営動向調査ということが行われておりますが、その中で売上高純利益率が1.6%という現状で考えますと、5%の売上税を価格転嫁できない場合は、全社平均的に赤字という事態を招来するわけです。又年商1億以下の方の非課税業者についても当初中曾根さんは中小企業を保護するというか、有利になるようにこの枠を作ったのかもしれないが、これは一種の役人の発想と申しますか現場を殆ど知らない人達で決めたものが出ていたのではないかと思ひます。仕入分コストアップ分を転嫁できない非課税業者は上からの取引を除外される心配も当然出て来ます。そのほかに事務処理が複雑になつて3ヵ月、6ヵ月の中でまとめて申告し税金を納めるといふ大変な手数がかかるわけです。そのようなわけで東印工組は絶対反対の線を進

むわけです。(以下構改事業内容につき7頁別稿にて掲載)

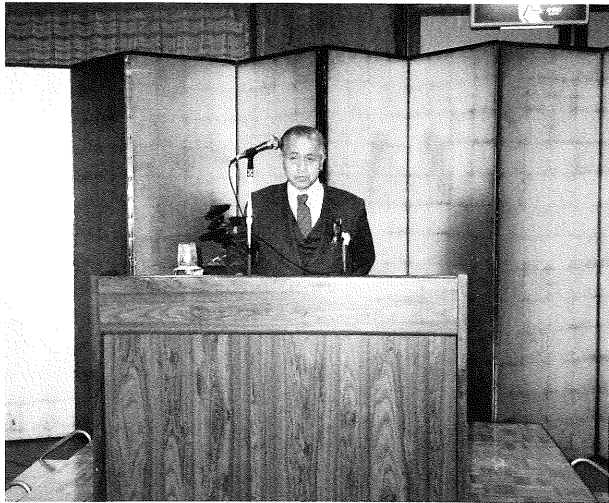
続いて京橋製本協組、豊田理事長が賀詞をのべて挨拶されました。

「本日は東印工組京橋支部の新年会に招かれまして有難うございました。我々京橋製本協組は日頃皆様方に大変お世話になっております。又印刷業界あつてこそ、我々製本業界が成り立つという事ですから、いろいろな面でご協力、ご支援を賜つています。厚く御礼申し上げます。先程からいろいろなお話がございます、売上税の事もありません。これは私共の製本組合としまして、理事会において反対であると言つてはありますが内容についてはまだ私共はよく聞いておりません。そのようなわけで、最近日本国内が揺れ動いている状態であります。早くそれを自分なりに納得できる説明を聞きたいと思つてますが、これが我々業界にどの程度影響があるのかまだ自分なりに納得してませんのでお話できませんが、最近の問題としては我々製本も変動があります、製本だけでなく印刷も同様だと思ひますが、各方面で執ように多額の札ビラがふりまかれていまして、京橋から江東区等、他所へ移転する方、又それによつて廃業する方等いろいろ起つています。我々としましては、非常に残念ではありますが、皆様自身がお考えになつての事と思ひます。何とか少しでも減少をくいじめたいと考えているわけですが、

個人のお考えもいろいろありますのでどうしようもありません。多分そんな例が増えており今後もあると思ひます。今京葉線の工事も始まりまして、この工事が完成の頃は又、大きな山が来るのではないかと話もあります。製本組合本部でも毎月のように異動が報せられており、如何にしてそれをくい止めるかを苦慮してあります。一方加入は少く、脱退が多いので困つております。このような状況のなかで我々は少しでも、皆様のお役に立ちたいと思つてます。ただ私達は最近の印刷業界のかなり高度な機械化といひますか、これが相当製本業界でも問題になつてまして、今後、どのような方向へ進展するのか判りませんが、我々も皆様方について、いろいろ教えて頂きまして今後何かとご指導を賜りたいと思つております。よろしくお願ひ致します。

簡単ですが新年のごあいさつに変えさせて頂きます。本日は有難うございました。

最後に岩尾副支部長が閉会の挨拶を行い、円滑な進行にお礼を述べて、定刻4時半に新年臨時総会を終了致しました。少休止のあと新年懇親会は5時50分から、関連業者32名、報道関係者等を含めて120名以上もの出席で盛大に開宴されました。まず進行係の佐藤副支部長の開宴の挨拶に続いて、小山支部長が関連業者に出席の御礼を述べ、続いて出席関連業者各社の紹介があり、代表して、(株)芳賀洋紙店、副社長芳賀良男氏が挨拶され、最新の用紙の需給状況等につい



ても具体的な数字が併せて紹介された。支部顧問石澤幸氏の発声により祝盃が上げられ、久しぶりの温泉地での大宴会で、出席者ものんびりとくつろぎ、歓談に華を咲かせて、芸妓のおどりやバンド演奏、カラオケ大会とそれぞれに盃を傾けながら楽しい一時を過ごし、8時過ぎ、支部相談役久保田幸一郎氏の中締めにより宴も終りになりました。

翌朝、前日の暖かさは変わって、寒さの中、皆さん思い／＼におみやげを手に、三々五々散会してゆきました。

(編集部)

東印工組主催

売上税反対総決起大会開催さる

3月2日(月) 於・千代田公会堂

3月2日(月)、午後4時より、九段下の千代田公会堂に於て、東印工組員他約1千名以上が参加、京橋支部からも小山支部長以下95名が参加し、売上税阻止の氣勢をあげた。新村重晴大会々長は、売上税に次の5つの点を反対の主旨とし絶対反対を表明した。

反対の主旨

1、当印刷業界は極端な過当競争を強いられ、おり、コストに見合う料金を確保するに至らず、年毎に収益低下の度合いを強めています。まして売上税の価格転嫁は望むべくもありません。

二、当業界の多くを占める小規模非課税事業者は、税額票が発行できないので取引から除外される恐れが多分にあり、小企業の存立が危ぶまれる事態発生が憂慮されます。

三、課税業者にはすべて記帳義務が課せられ、期間毎の計算、税額票等の保存に至るまで事務量増加と経費増は著しいものがあります。これらを負担する余地はありません。

四、売上代金の收受に先だつて納税することになるため、その間の納税額立替のための資金繰りの悪化、資金コストの上昇が避けられません。

五、得意先との税額負担の軋れき、印刷業者間仕入先との摩擦等、現状の取引関係の変化、



混乱を生じさせ、更に3ヵ月毎の税額計算について税務当局とのトラブル発生が懸念されます。

尚大会決議とし反対運動の継続を確認した。

第三次構造改善事業について

「新たな時代を生き抜く事業計画」

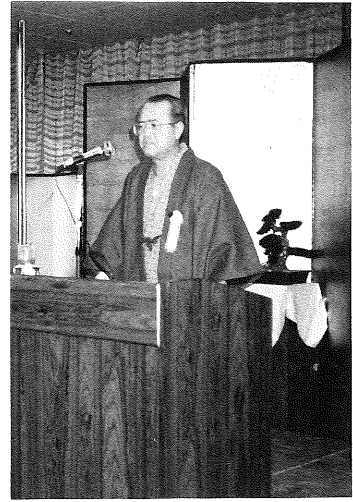
東印工組 常務理事 長 島 一 磨

次に構改事業ですが、私が本部に出させて頂き、委員長という大役を仰せ付かっております。前に石曾根さんが委員長として4年間勤められた後で、私には大変重荷ですが、今度の第三次構改は第一次、第二次のそれとは、若干意味合いが違っているという点を是非皆様方に出るだけご理解頂きたいのです。そして構改という言葉は聞いただけで、一種の拒否反応のおきる事のないように成るべく細かく説明してゆこうというので、今回の場合各支部単位に説明会を開催している最中でありませす。京橋支部はすでに説明会を行いました。他の荒川、浅草、千代田の各支部にも伺いまして出来るだけの話はさせて頂きました。3月10日の調査票の提出に向いまして多くの説明会が行われ、きめの細かい説明をするつもりです。順調にゆきますと6月頃に通産省の認可を得る予定であります。一次、二次の構改は各組合員の皆様にとりましてある企業は制度的メリットを受けられたが、逆に中小企業の中での中堅と小企業の格差が開く結果に終わったのではないかという一面もあつた

と思われます。今度はこれらの点を洗い出して反省すべき所は反省して、計画を作る段階で取り除いていこうと、現在の展望から事業内容として、メニューにいたる全体が出来上っているわけでございます。一例を申しますと、協同組合というのはそれぞれの利益が優先するので、なかなかまとまりにくい。恩恵の受け方も違ってくるという事で禍根を残したと思います。形骸化した協同組合も方々で見受けられました。企業格差については、私の考えでは昭和20年から現在までを考えてみますと、印刷業界はある意味では非常に恵まれた一種の閉鎖社会であり、業界内での競争は激しいものがあつたと思ひますが、他業界との競争においてはむしろ恵まれていたのではないかと思ひます。その意味で現在企業格差が問題となつているのだと思ひます。最近ではむしろ他業種から印刷業界への進出が新たな問題として出てきています。コンピュータを中心とした社会での、パソコンの普及もあり、情報の媒体も多様化した中で、印刷物の生産面において、需要の面でも多様化のお

り印刷業すなわち印刷が大きく変化してきていのではないかと思ひます。その意味で印刷業界の中だけで企業間格差を問題にすべきではないという点を訴えていきたいと考えています。この第三次構改事業を、名称を変えて、「新たな時代を生き抜く業界計画」としたのは今迄の構改のアレルギー反応を考慮し、当初のような誤解を招かないようにしたいという事で言い替えたわけです。新たな時代ということをどのようにとらえてゆくかが、今後の事業をご理解頂くための一つのキーになるのではないかと思ひます。本日は、折角の機会ですので私個人の意見を交え、大変超越ですが述べさせて頂きたいと思ひます。

現在コンピュータの発達、これは確かにテクノロジーの時代と言われていますが、その中で問題なのは企業のエゴにしましても或は集団のエゴにしましても、エゴを主張する時代はそろそろ終りにきたのではないかと思うのです。世の中の仕組みというのが相互依存の関係付けが緊密になつております。よくゼロサム社会と言われますが、これは世界的にみましても、例えば現在日本にお金が集つていますがそれが日本から世界へ還流されないと、世界の経済というのが円滑に動かない。そういう問題を含んでいるわけで従いまして私共が、戦後宮々として築き上げてきた、これだけの含み資産、これを蓄えこんできたものがある日、突然に30年代の恐慌のような事態が起こつた時、又米国と日本の関係の中、アメリカの債務というものは



何らかの形で債務放棄となった時、私共がためた資産というものは一片の紙切れと化してしまわうわけです。そういう世界経済の全体の仕組みを考えますと、日本人が働いたものだから自分の金であると一方的にすましていいものかどうか、最終的にはそういう付けが廻り廻って私共のところへ返ってきて、相互関連の濃さというものが今の社会の仕組みとして、非常に強くなっているという捕え方をしなければいけないのではないかと思っています。新たな時代といった意味を、充分に考慮する必要がありますと思つてます。確かに日本の場合高度なテクノロジーは進んでいるのですが、例えばアメリカと比較致しますと基礎的な面で、社会的蓄積といえますか、ストック面での劣勢というの否めないと思います。その一つの警報として、日本人の考え方の中に、仮説を排するという、同質社会の日本では何か異端の意見を言いますとすぐ村八分にされてしまう。或は最初から協調してゆかなければいけないという意識が強すぎて、

異つた事を言おうとするような全体の場というものがない。前から感じておりましたがたまたま仮説を提起するという事は日本の社会では行われにくいのではないかと思います。同質社会の中で異説を唱える、これはこういう変化の激しい時代にはいろいろの意見を活発に出してお互いそれを充分討議し合つて事を進めていくという事が必要なのではないかと思います。これに関連しまして私が最近読んだ本の中でですが、「ガイアの仮説」というものです。御存知の方もおられると思いますが、ジム・ラブロックという人が提唱している、一種のニューサイエンスの一つの論として展開されているものです。それはどんな説かと言いますと、地球上の大気の構成は化学的に不安定であり、他の惑星は安定している、何故地球だけが不安定なのか、恐らく生命発生以前には大気の中の酸素というものもなかったでしょうが、生命というものが地球の上に発生を致しましてから、後は酸素の濃度というものが生物の状態に合せて、或る一定の濃度で調整されている。しかも生物だけでなく生物と無生物とが全体として一つのシステムとして恒常性を保つて現在に至っているといふわけです。

ギリシャ神話の中の地母神で、ガイアという神の名がありますが地球自体が一つの生物として自分で、あたかも調節をとっているかのような大気圏というものが調整されている、これは統計的に今迄いろいろと調べられた中で、非常に不思議なもののようにです。その後科学者のブ

マーグリスとジム・ラブロックが共同研究をして一般に知られるようになったのですが、当初ラブロックが発表した当時はそんなバカな事はないと皆に相手にされなかったようです。この共同研究の結果、大気圏だけでなく、海水圏、地上の岩石圏、という自然の全体の仕組み、それに生物が加つてこれらが相互に複雑に関連し合いながら、それぞれが物質を交換したりして、地球というものが一つのシステムを作り、それが全体として地球を自己生成、自己保存するようになった。というわけで相互依存関係の中の一つだけでは生きてはいけない、お互に関連し合いながらでないと生きていけないのが現在の世界として、今ニューサイエンスから、科学的に実証されつつあるわけです。

経済の世界でと先程述べたように、日本だけが資金をため込んでいたのでは、最終的にしつぱ返しを喰うおそれがあり、そういう依存関係というのがあるわけです。そこで構改革も私はいかならないのかと思つていかなければいけません。ですから制度的メリットとかの問題等ございしますが、要はグローバルな観点に立つて物事を考え、お互に協力をしてゆかない限りは、いくら姑息的な事をどういじつても、やはり構改革はギクシヤクとした形でしか進められないのではないかと思つています。異質な意見を言う場がもっと日本にあつてもよいと思うと共に、大局的観点に立つて、そういう意見を言う事が望まれるのではないかと思つています。新年総会



アキヤマ印刷機製造(株)見学会及び新年会開催

京青会 2月行事

に四角ばった面倒な話を致しましたが、私自身、構改担当委員長という立場から考えまして、その辺の事がうまくいかない限り、構改も成功しないのではないかと、それと同時に東印工組の組織自体も柔軟性を持ったものに変えていかなければならないと思います。それにはそこに参加している組合員の一人一人が意識変革を通じ

てでなければ、改善は出来ないのではないかと思っている次第です。いろいろと勝手な事を申し上げましたが、私の個人的な一つの夢として、ただこの夢を言うにはそこに私なりの論理的な裏付けと言うか自分の考えを納得させるようなものを持ちながら話をさせて頂いたわけです。どうも有難うございました。(拍手)

2月21日(土)、京橋支部印刷人青年会の行事として、アキヤマ印刷機製造(株)水海道工場の見学を行うと共に、水戸偕楽園に足を伸べて梅見物を計画、帰京してからは、銀座7丁目のエスカイヤにて、月遅れの新年会を開催しました。肌寒さのする中を、ハトバスにて印刷会館を10時半に出発、京橋支部からは、白橋副支部長も参加、東商中央支部の平野氏の尽力で、バス代補助のもとに、車中で東商の事業の説明をうけて昼食をとる間に、昼頃、偕楽園に到着、暖冬のせいか例年より開花の早い、3、4分咲きの紅梅、白梅の園内を散策して一時に出発、バスは常盤高速道の渋滞にまき込まれて3時過、アキヤマに到着して、慌しく工場責任者の説明を受けた後、工場内を見学して一時間後の4時過ぎに、同工場の方々に見送られて出発、5時半頃やっと帰京して、6時からの新年会の会場へと直行しました。

原稿募集

京橋の印刷はお蔭様で本号で通計六十七号となりました。支部報は、創刊以来「支部員の手による、支部員のための支部報」という方針で製作、編集して参りました。今後もその方針でみなさんのお役に立てたいと編集員一同心がけております。そこでよりよい支部報発行のためみなさんの原稿を募集します。みなさんの中には趣味として、短歌、俳句、詩、川柳、随筆などの他ご意見、ご要望等お持ちの方が多々あるかと思えます。特に最近のように環境が一段と厳しくなつて参りますと何かと大変かと思いますが、相互情報交換の場としてもご利用頂ければ編集委員としましてもこれにすぐるものはありません。

何卒みなさんのご投稿をお待ち申し上げます。

編集委員一同

アキヤマ印刷機の方では、もっと入念に見学を予定していましたが、急用の方もいたのでじっくり見学しないのに電卓のおみやげ迄頂きました。京青会会員20名が参加しての新年会は白橋副支部長の音頭で乾杯、今年のお互いの奮闘を期して大いに気炎を上げました。

危ない会社の見分け方(5)

実戦的経営術

60・10・16 (中央区役所商工課セミナー)

講師 S A B コンサルティング(株)
中小企業診断士 井 合 敬 三

そして従業員の中でサラ金から借りている人には早めに社長が代弁したり、交渉して早く返済させられるようにしているのですが、サラ金の中でも皆悪いという事でもないのですが、サラ金から入って町金融やヤクザに借りているようでは大変です。普通500万円の手形を持っていて250万円しか渡しません。ひどいになると100万しか渡さず全部利息で取るのが現実にあるのです。金利でもヤクザから借りると今でもトイチです。法的でも普通の所で40%、今でも72%までは取っていいのです。サラ金を入った経営者は一寸、もう再建しても無理です。町金融なんかに入るとどんな企業でも儲け出せるわけがないんです。年40%も利益出せるわけがないです。それを借りるのは借りざるを得ない状態になってしまふのです。私は再建する時にわざと不渡りを出す場合が多いのです。この頃は不渡りを出さない事には銀行も協力してくれない。銀行へ行つて一寸待ってやってくれとか債権者を呼んで棚上げしてくれといったも、つづれな

い事には何だかんだ言つてもものまないのです。意図的につぶしちゃうのです。特にヤクザと対抗する時には不渡りを出さないと駄目なんです。手形で振込むぞと脅しますから、そして金を持ってこいと言うのです。銀行も不渡りを出すと途端に棚上げに応じるのです。で再建してあげようと思えば強引に出します。不渡りを出さないで再建というのは今は久しくありません。特に町金融に入つたらもう不渡りを出した方が早い、それから交渉をするという事です。

このように借入金でもいろんなケースがある。その次に受取手形で此頃多いのが融手というもので、融通手形は何でこのように氾濫したのかといえは銀行が悪いのです。まず手形には受手と支手、支手の中でも商手と融手がありますが、融手の出し方にも二通りありまして融手で再建している所も一応ありますから悪いという事ではないのです。ただ銀行がいけないのは、月商1千万に対して大体手形回収率は8百万という事を知つてましても、どうしても今月資金繰り

が欲しいという8百万現実に持つて割つていけるのですが、お金は貸せないが手形でならという、融手でも持つて来いという事です。何で銀行は暗に融手を持つてこさせるのか、それは皆保証付手形なのだからです。銀行協会は大体手形割引に保証を付けています。そうすると万一不渡りになつてもその分は保証協会からもらえるのです。銀行はだからある程度融手と知つて割つていけるのです。この融手にもやり方がありまして相手から借りてくるだけの融手があるのです。自分は手形を出さないで、交換しないで相手から借りてきてこの銀行で割るという訳です。これは財務適応力として使う時は、すごくいい方法なのです。4ヵ月で借りてきますと3ヵ月目までは割手で自分のとこで使えるわけです。50万づつ借りてきますと3ヵ月で150万を固定資産として使えるので4ヵ月目に割つたら相手方を持つていく、そしてこれを落すのです。これを繰り返すと町金融で借りるより、銀行利息で割つてられるので、150万円固定資金として長期借入金にもできるわけです。それで人のいい方は手形を貸してやられてる人も結構いるのです。それから融手の第2はお互いに振り出し合うというものです。頼まれた方は、最初は持つているつもりなのですが、所があとなつてついつい割つてしまふのです。一度割つてしまつとどんどん金利分だけふくらんでいくわけです。大体融手をやりますと三年で倍額になります。どんどん融手の金額がふえていきまふ。最後はどうしようもなくなつてつづれてい

くわけです。それがまだ銀行で割ってる分にはいいのですが、これが町金融に流れ出すと大変なのです。だから融手はやらない方がいい。現在10社に1社はやっているのじゃないでしょうか、これは確信を持っていえると思います。

町金融はだめといたしましたが町金融で再建した企業もいっぱいあるのです。ある程度担保価値があればぎりぎり迄、町金融は出してくれます。銀行より金を貸しますので、金利だけ払うように交渉する。そして再建している所はよくあります。その代り18%はとります、銀行の倍はとります。それで何故、再建できるかは、月々元金を返さなくてもよいからです。元金は減らない代り、年利18%で月18万円で会社は生きてゆける。銀行は金利つけて元金返さなければいけません。そうすると資金繰りできないようにできているわけです。1千万円銀行で借りて5年で返せとなると、月20万の元金に金利で30万円になる。ですから町金融もうまい使い方次第で却ってそれで再建できた所も結構あるというわけです。次に売掛金の場合皆さんもよくお判りだと思えます。

次に財務内容の悪い会社の内容を見るのに、私はそれを架空勘定というのですが、これがあるとつまり、その分お金がないという事です。資産側の架空勘定は貸付金、前渡金、立替金、それから仮払等、その進歩度によりますが、私はこれ無いお金、つまり架空勘定と定義するのです。実際に会社を整理すると全然無いし又無いのが普通です。赤字の会社が操作をする時

にこれを使うのです。黒字の会社を赤字に持つていくのは先程いきましたが、会社の社長の借入金がどんどん増えていくのがありますが、現実には借入れがどんどん増えていくのは全部経営者からなのです。税務対策上、赤字にしているだけなのです。ところが逆にこちらは税務上黒字にする時に使うのです。交際費を否認して立替金へ持ってきたりする。赤字になったので、社長へ立替金にしたり、役員への前渡金にしたり、税務士さんに頼むと大体これらを増すのです。あと、在庫をやりますが在庫はこの企業でも普通やっていますから、架空勘定等は税務対策上、対銀行調査上やるわけです。ですからこれらの勘定は現実にはないお金ですから抜いて考えなければいけません。90%以上現実にはないものと見なければいけません。だからこの多い会社は気をつけなければいけません。まず90%以上は現実にはないものと見なければいけません。この架空勘定の多い会社は危いという事と固定資産が多ければおかしくなるに決っています。これは皆さん勉強されているから判っていると思えます。今後気を付けなければならぬのはリースなのです。リースは資産にのつてこないからです。支払手形ものつていないのです。両方共、支払期日がきておちた時リース料となるのです。ですから財務内容をみる時に、5年間ならその期間の支払手形のリース料をこの固定資産に加えてみなければいけません。先に話しましたがリースは解約しても機械なら900万円渡さねばなりません。ですから今後の財務内容を

みる時はすぐく大切にります。リースは負債で片一方は固定資産ですが自分の会社の内容をみる時も固定資産に入れてみないといけません。私はリースを入れる経営者には次の事を言っています。高度化のリース機械等を入れる時は、まずリース業者の話絶対信用してはいけません。彼らの話に乗るなという事と実需が3倍にふえる可能性がないなら入れるな、その機械のお蔭で受注が3倍になるなら入れてもよい。そしてもう一つ、昼夜交代で今の機械を動かしてみても間に合わなくなったら入れてもよいという事です。又違約金は必ず確認するという事です。リース業者はなかなか違約金の事はいわない。約款に小さく書いてあります。そしてもう一つ、体が楽になるようなリースは絶対に入れてはだめです。労働者の体を楽にするだけではだめです。今利益を出している会社は体でかせいである所なのです。決して高度化された機械を入れている所ではないし、又そんな所は皆リース料の返済に追われているのです。入れてみたが残らないのが通り相場です。

ある油圧業者の例ですがリース機械を4台入れている所と同じ得意さんから請けている会社は税務署対策をどうしようという位です。リース機械を使っている所はもう倒産していて再建5年目です。つまりリース料が払いきれない。それだけの仕事量がないのです。又リース機を入れますと勢い数物を取りますので単価がどんどんと下げられてしまうのです。リース機を使っている会社の信用は必ず叩かなければいけ

ません。いいですねと感心しているとその内にやられてしまう。次に在庫についてですがこれは皆さんお判りなのでいいと思いますが、今度恐くなるのは在庫の中でも「人間在庫」だけです。人間の在庫は企業をつぶします。中小企業でもどんどん高令化へと向っています。だから余程気を付けて教育していかないといいけません。一番ひどいのは経営者自身の在庫です。商品の在庫より、人間の在庫が一番これからの課題です。

あと固定資産はいいとして負債の方も借入金だけみて頂ければいい。損金計算の中でも、私は10年位前から金融機関に言っているのですが、売上げが伸びないと優秀な企業ではない。安定しないと銀行や国金等は主張しますが、それは間違いであると主張しているのです。私が言っても信用してくれないがある大学教授が書いてくれて銀行もやっと認めてくれました。

売上げが常に伸びている会社程、財務内容上危険なのです。一番安定しているのはジグザグな売上高なのです。これが一番企業として安定しています。売上げが逆になっていく会社も安定している。それは経費節減に早く着手するからです。経営者が早く気付いて締め出すからよいのです。だから要注意なのは売上げが常に上っているのと、並行な場合なのです。売上げが並行線で行っているのは、じわじわと費用ばかりがふえていく。原価が上って費用がふえてくる。気がついた時はおかしくなっている。売上げがジグザグでない要注意であるという事

を頭に入れておく事と、又下っている時の方が企業は安定しているのです。

それから企業をみる場合に、皆さんすでに他のセミナーでも聞かれていると思いますが、「2対6対2」の原則という事を聞かれたと思いますが、これはアメリカの学者が地面を這っている蟻を研究したものです。蟻を観察して蟻の内で猛烈に働いているのが2割、それにいやいやくつついて働いているのが6割、そして怠けているのが2割というのです。これを顧客で分析し当てはめる時も、この比率であった方がよいというのです。2割でもつて80%の売上げを抑えているという事です。商品でもしかり、従業員にも使える。私も朝起きてよく今日は働こうという気分がいい日は、一週間の内2割はない、何とかいやいや働いている、できれば一日位休みたい時があるのです。人間の感情もこれに当てはまる。自分の会社の従業員でもよく働いている者が2割と当てはまるのです。そしてこのどうしようもない2割を観察すると又2対6対2になってしまうそうです。つまりいつも100の内どうしようもないのが2%はいるという事です。学者がいう理論では商品をおくのも何でも、この2割を切り捨てろという言い方をするのですね、私は全然この逆の考え方なんです。

これはある大手のタクシー会社で一年間コンサルティングした時の事です、事故を起した連絡がくると必ず同じ2・3名の人間なのです。ああ又あいつかという事です。それで社長はそ

の3名を首にしたのです。そうすると残った人間の中から又2・3人事故起すのが出てくるのです。同じく絶対必要な悪なのです。これは経営者が知っているかないかの問題です。悪いと思つて、置いているかどうかなのです。知らないで置いているのが一番危険なのです。だからお得意にしても100軒持っているとしたら、2軒位、悪い得意先を持つてもこれを置いておく、知つて置いておくのです。そうすると相対的に安定化へ向うのです。切捨ると又他のものが出てくるのですから、これが私の考え方ですが学者はこれを捨てろというのです。私はこれは経営者が知つておいた方がいい、その程度の傷は知れている程度は置いておく、規模の小さい売上げの悪いお得意も置いておく、逆に次に大きいのが出て来ないですむ可能性もある。そして、練習台にして、従業員にそういう危険性のある所へ行かせるのです。不良なお得意と判っているわけですから、そういう所へ営業員を行かせて勉強させる。そして見抜く力を養成するためにも置いておくべきです。

次に支払利息、私が経営者の方には荒利さえ押えておく、必ず荒利だけは報告を受けるといふことです。もう一つは支払利息のパーセントで押えておくやり方です。売上高に対して支払利息が何%以上になったら、私に相談して下さいと言っているのです。私も300社からを抱えていますので、全部廻れませんが安定している時は税理士さんに全部任せえています。再建中の会社はこちらから入っていきますが、

他は税理士にここは支払利息がこれ以上になつたら、私に連絡して下さいと言っておくのです。荒利も同様です。製造業は荒利が3%を切ると一寸危険じゃないのですか。売上高利益率が3%を切ると何かおかしいという事です。

卸売業は1.5%（業種によつて異なるが）をこすと一寸おかしいと思わなければいけない。借金が多いという事です。そして小売業になると大体1.7%金利がこすと少しおかしいといえる。私が扱った、過去に於て再建した所で完全に、経営者の家庭の中まで入れた所のデータを申しますと、65社からとつたデータですが、その平均従業員13名位ですが、倒産原因として、まず資産原因、負債原因とありますが、負債が多くなつて対応できなくなる時は二つの要因がある。資産が原因の場合と費用が原因で負債が多くなる場合と二通りです。

資産が原因の場合はまず投資過多（設備・在庫）、在庫投資でつづれた所が11社、設備投資でつづれた所が10社、研究開発投資が軌道にのらなかつた所が2社、そしてリースが原因が3社、このリース原因は今後増えます。

それから不動産、建物を建てた、土地を買ったのが原因が11社、ゴルフ場等の会員券を買った負債増が原因もあります。次に不良債権が12社ですから、65社の約2割です。不渡りを喰つてつづれたというのは少ないという事です。

それから預貯金過多というのがあります。預金しすぎて不渡りを出すというのが一軒だけありました。これはある町の商工会の副会長長の

ですが、ビルを作る時、恰好よく預金2億を持っていたが、下さず、全部借金でやったのです。その内に、銀行に行くともまああといわれ、副会長としてのつきあひもある等で、結局、資金ショートで一回不渡りを出してしまつた。

（つづく）

靖国と教科書に思う

（日刊食糧新聞 七月十日付コラムより転載）

▼背信主義者で通したドイツの誌人ハイネは「死後の安楽よりもきょうのパン」に徹した「生」とはあくまでも現実のもので、来世のものではない—がこの場合の信念である。来世の幸せを希う前に、まず、現実を生きなければならぬ理屈からいつても、また、きょうただいまの「生」なくしては来世とでもあり得ない道理からいつても、ハイネにとつて来世優先の手順前後は理解に余るものであつた▼この処世観は政治にも当てはまる。長期的展望を逞しく、不必要な早とちりと枯尾花に脅えるよりは、まず、現実の民生安定に専心すべきが政治家の責任ということだ。これこそが何よりの未来への備えに通ずる道の筈だからである▼たとえ、さきほど韓国を刺激した「—この調子で日本のストレスを増幅したとき

「新たな時代を生抜く業界計画」

調査票回収状況（3月20日現在）

。京橋地区、11社	（組合員数13社）
。銀座地区、21社	（ 23社）
。新富地区、11社	（ 17社）
。築地地区、22社	（ 22社）
。入船地区、33社	（ 38社）
。湊地区、34社	（ 59社）
。八丁堀地区、13社	（ 39社）
。新川地区、19社	（ 45社）
。月島地区、7社	（ 11社）

は、二、三十年後には戦争にならないとの保証を「持てぬ」である。若手の国会議員らが自らの信条を貫くことには異論がない。靖国神社参拝と教科書への第三国の干渉を「内政干渉」とした割り切りにも異は唱えない。「自分のことは自分で決める」が主張国家の当然の権利だからである▼ここまでいいとしても、しかし「二、三十年後の戦争」はどうにもいただけくない。靖国神社と教科書とを後年の戦争の火ダネと決めつけるのはあまりにも飛躍に過ぎるからである。それよりも何よりも「戦争」という忌まわしい言葉を持ち出すこと自体、国家の選良にふさわしからぬ軽率といいたい▼二、三十年後のことはその時代の者達が立派にやってくれる筈である。核時代の今日、戦争がそうそう簡単なものではないことを知るべきといいたい▼—まず、きょうの民生安定に全力を—を謹んで言上する。

（妙竹輪）

地区だより

築地互友会二月例会 於 宮川

二月例会は十九日開かれた。欠席は土井印刷福田印刷、白銀印刷の三氏。土井さんは昨秋入院手術され、退院されたが健康を気遣つての欠席と思われるが、毎回出席されていたので淋しさがある。しかし永らく顔を見せていなかった三森さんが久々に出席元氣な姿を見せ、短い時間だったがゴルフなどの話に花を咲かせていた。さて互友会には目下大きな異変が起つている。東印工組から二人が退会、一人が江東区への移転である。西村印刷さんと築地印刷さんは共に隣り組であったが、目下中央区を吹き荒れている地価高騰のための犠牲者といえよう。しかし辛いにも互友会には準会員として残ることにした。昇美印刷さんは同様ながら江東区へ移転した。築地地区は東印工組京橋支部から一挙に三人が減少した。これは将来的にも大きな問題を含んでいると見るべきだろう。

こうした状況の中で開かれた二月例会であったが報告事項は豊富であった。一、まず昨秋の旅行业协会の会計報告 二、地区長会の報告として高島屋で聞かれた工業展の報告 三、第三次構造改善事業についての説明会の開催について 四、京橋支部の臨時総会の報告 五、目下日本全国を燎原の火の如く燃えている「売り上げ税反対決起大会」を三月二日千代田公会堂で開催するための動員について等であった。

報告のあとは久々の顔合せで最近の情報交換に花を咲かせ午後七時半過ぎ幕を閉じた。

月島地区 3月例会



3月19日(木)、3月例会は月島3丁目のフジマートマンション2階の集會室で開かれました。地区長・幹事さんの手配で豪華な弁当やお造りが並べられて、11名の小所帯なので、殆ど全員出席という纏まりのよさで、18時

に始まり、支部から小山支部長が出席して日頃の協力を感謝しました。続いて八千代印刷(株)石曾根氏が組合功勞者として昨年、全印工連と都中小企業組合中央会からそれぞれ受彰されたのをお祝いして荒川副支部長の首頭で乾杯、記念品等が渡辺地区長から手渡されました。支部の新年総会でも祝賀しましたが、又地区での祝賀というので石曾根相談役も感謝の言葉で「皆様のご支援で長い間組合に出させて頂き、組合功勞者として表彰されたのも皆様のお蔭です。自分としてはただ好奇心が旺盛というだけで、何もとりたてて出来ませんでした。今後共、お役に立ちたいと思っています。有難うございました。」とお礼の言葉を述べました。月島地区から初の支部長を1期、常務理事2期の先輩を出したという事で皆さん心から喜びの祝盃をあげて歓談が続きました。

支部の動き

12月4日 本部支部長会、於、印刷会館、小山支部長出席。

12月10日 編集会議、京橋の印刷担当打合せ

12月12日 京橋支部幹事会、於、京橋会館

部長、監査、地区長、幹事約50名出席、会費5千円、小山支部長一年の勞を謝す。

12月15日 本部総務委員会、於、全日空ホテル、小山支部長出席し協議

12月20日 全印工連主催構改事務局研修会、於後樂園ホテル、小山支部長出席、

12月29日 支部事務局仕事納め

1月5日 支部事務局仕事初め

1月6日 東製工組京橋支部新年会、於、築地スエヒロ、小山支部長出席、挨拶をする。

1月7日 中央区工団連新年会、於、中央会館

1月14日 小山支部長以下各副支部長、地区長出席

1月19日 本部総務委員会、於、印刷会館、小山支部長出席

1月20日 部長、監査、地区長会、於、支部室

1、支部長会報告事項

- ・ 全印連モニター企業の推薦、293社、
- ・ 紙需給予測
- ・ 頁物・出版研修会、12/18日、70名参加
- ・ 売上税粉砕緊急中央国民集会、12/19
- ・ 第3回印刷営業士認定講習、1/27

- 3 / 7
- ・ 第 8 回有機溶剤作業主任者技能講習会
2 / 12、2 / 13
 - ・ 地場産業振興計画・人材養成事業新技術研修会、2 / 14、
 - ・ 生活安定セミナー、2 / 26
- 2、本部事業推進について協議事項
- ・ 第 3 次構改計画役員説明会、1 / 21
 - ・ 第 3 次構改計画支部説明会の開催
 - ・ 小口融資金利改訂について、7.25% ↓ 6.75%
- 3、売上税創設に対する反対運動について
- 3、支部提案事項
- ・ 用途地域の変更と工業振興について、都、区への要請について（文京支部）
 - ・ 第 3 構改の本部から支部内説明要請について（文京支部）
- 4、当面する支部事業について
- ・ 新年臨時総会の進行打合せについて
1 月 23 日 神林印刷(株)新社屋落成式、於・同社ビル、小山支部長出席、挨拶をする
 - 1 月 28 日 下請法研究会、於、印刷会館 5 F、小山支部長、岩尾副支部長・柴田監査出席
 - 2 月 3 日 支部構改説明会打合せ、於、支部室
 - 2 月 5 日 本部支部長会、於、印刷会館、小山支部長出席
 - 2 月 6 日 新たな時代を生抜く業界計画説明会、於、印刷会館十階、支部員 45 名出席
 - 2 月 14 日 京橋支部新年臨時総会、於、箱根湯本富士屋ホテル、120 名参加、会費 2 万円

- 2 月 14 日 部長・監査・地区長会、
- 1、支部長会報告事項
- ・ 公害労務情報アンケートについて
 - ・ 組合の会計処理と税務問題の研修会、の結果について、1 / 23、参加者 50 名
 - ・ 下請法研修会結果、1 / 28、参加者 25 名
- 2、行政相談委員候補者の推せんについて
関東管区行政監察局へ堀越輝治氏を
売上税研修会の開催（日印産連主催）
2 / 16、東京商工会議所
- 3、東印連統一地方選挙薦推規程について
火災共済第 3 次 5 共済事業強化月間
- 2、本部事業推進について協議事項
- ・ 売上税問題について、特別委員会設置
 - ・ 構改支部説明会開催について
 - ・ PS 版市場価格問題について
- 3、当面する支部事業について
- ・ 新年臨時総会、宴会進行打合せ
 - ・ 構改支部説明会出席数、京橋 45 名
 - ・ 中央区工団連主催工場団地見学会、2 / 27
 - ・ 京青会主催、見学会、2 / 21、アキヤマ、参加者募集
 - ・ 京橋の印刷、3 月号原稿募集
 - 2 月 17 日 臨時支部長会、於、印刷会館
 - 2 月 24 日 中央区工団連主催、永年勤続従業員表彰式、於、中央会館、京橋 8 社 36 名受彰
 - 2 月 27 日 中央区工団連主催、工場団地見学会、品川機械団地、江東印刷団地見学、京橋支

- 部より小山支部長以下 9 名参加
- 3 月 2 日 東印工組主催売上税反対総決起大会、於、千代田公会堂、京橋支部より 95 名参加
- 3 月 5 日 本部支部長会、於、印刷会館、小山支部長出席、商業印刷ビデオ発表会も出席
- 3 月 12 日 部長・監査・地区長会、於、支部室
- 1、報告事項
- ・ 新技術研修会の結果について、2 / 14、D I C ビル、242 名参加
 - ・ 営業士指導講習会の結果について、2 / 18、飯田橋セントラルプラザ 90 名出席
 - ・ 生活安定セミナー、2 / 16、飯田橋セントラルプラザ、70 名参加、労災説明
 - ・ 東京都中央労政協議会委員候補者推薦
 - ・ 売上税絶対反対総決起大会について、22 支部より 934 名、関連団体 188 名参加、翌朝決議文を衆参議員 35 名へ手渡す
 - ・ 62 年技能検定実施について
 - ・ 新入社員養成講座について
- 2、本部事業推進について協議事項
- ・ 62、63 年度総代改選について
 - ・ 「商業印刷教育ビデオ」、1 本 1 万円
 - ・ 構改説明会開催状況
 - ・ 通常葉書（4 面連刷）の発売について
 - ・ 統一地方選挙立候補推薦依頼の件
- 3、支部提案事項
- 「東京の印刷」支部新年会記事の選択基準について、各支部の招請による。
- 4、当面する支部事業について

- ・ 通常総会の開催について、5月13日(水)、5時30分、築地スエヒロ事業報告書の作成は各担当者で分担、4月中に印刷する予定
- ・ 顧問・相談役・参与の会開催4月予定
- 5、その他
- ・ 中央区建築課による印刷工場認可内容の実態立入調査については、工団連を通じて中央区へ対処を申入れる
- ・ 本部弔慰金の領収書回収問題について

支部員の異動

- 加入組合員 (62年2月)
 - ・ コクダイ印刷(株)、大嶋和十三殿、新富1-9-2、電話553-9686、(新富地区)
- 脱退組合員 (62年3月)
 - ・ 西村印刷(株)、(築地地区) 西村俊雄殿
 - ・ 築地印刷所、(築地地区) 余吾光司殿
 - ・ 光印刷所 (入船地区) 磯野孝史殿
- 支部移動 (61年12月)
 - ・ 昇美印刷(株)、(築地地区)、佐藤克之殿、江東支部へ転出、電話630-7681
 - ・ 東銀座印刷出版(株) (銀座地区)、内藤文夫殿は豊島支部へ転出

住所移転

- ・ (株)片山印刷製本所の住所が江東区三好3-10-2、電話642-6431に変わりました。
- ・ エーピーデー(株)の住所が、八丁堀3-1-3に変わりました。

- ・ 大興印刷(株)の住所が明石町5-13、シャルマン明石町312号になりました。
 - ・ 共盛堂の住所が江東区木場3-8-15、電話630-9581になりました。
- お悔み申し上げます

▼入船地区 今村印刷(株)社長、金丸幸右衛門殿が御逝去されました。

▼湊地区 (有)光成社印刷所社長御尊父、飯塚綾左衛門殿が御逝去されました。

社名変更

- ・ 湊地区、(株)第一印刷所が、(株)デイグと社名変更になりました。尚、同社は、千葉県松戸市松飛台工業団地内に、工場を新設。
- ・ 湊地区、(有)水谷弘報印刷が、(株)ミズタニと社名変更になりました。

◎京橋支部会議室ご利用について

地区会、京青会は二千円、これに準ずる会は三千円です。(原則として三時間以内。)支部員の個別企業で会議等で使用の場合は、五千円、尚接客用の場合は一万円です。(同三時間以内) 尚定員数は21名です。椅子は応接用ソファーとなっています。利用時間は朝9時から夜21時迄となっています。支部員の皆様のご利用をお待ちしています。

編集後記

▼日本中が売り上げ税反対で騒然となっているが、地方選挙がらみが火に油をそそいだ形になっている。東印工組も三月二日に売り上げ税反対決起大会を開きアツピールしたが、果してこの売り上げ税問題はどうか気がかりである。

▼売り上げ税問題の背景は税制改革における直税比率の見直しである。ここで思い出されるのは昭和二十四年九月十五日に発表されたシャウプ勧告である。直接税を中心とする税制改革の要求であった。これが今日の税制の基本になっていると同時に日本経済は立ち直り始めたのである。このことをもう一度ジックリと思い出すのも、参考になるかも知れない。

▼この年は、下山事件、新制大学のスタート、一ドル三六〇円の為替レートの設定、富士やまの飛魚古橋がロスで新記録樹立、母の日設定、食べる方では野菜の統制撤廃、さつまいも自由販売、台湾バナナ初輸入、そして日本初のノーベル賞が湯川博士にといった具合だ。

▼新年臨時総会の模様はトップリとスペースをとった。この日挨拶された東印工組長島常務理事の第三次構造改善事業の部分は大変参考になったので別組にした次第。

▼本号の表紙は「竹」にしました。雪の重みでしなっているような力強い竹の姿が画かれています。作者は竹をことのほか好きだったようで、友人でもあった安倍能成氏も讃辞を……。